

3	長野県諏訪実業高等学校	28～30
---	-------------	-------

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
<p>－「文化ビジネスエキスパート」育成プロジェクト－ 地域の魅力や日本の感性をビジネスバリューにつなげ、世界に発信し地域を創造する人材育成プログラムの研究</p>	
2 研究の概要	
<p>諏訪の伝統的文化や伝統的産業を深く理解することによって、主体的に地域の課題を発見し、地域と協働して解決に取り組み、グローバルに発信することができる「文化ビジネスエキスパート」としての資質・能力を伸ばさせることにより、地域に貢献し、地域を創造する人材を育成することを目的とする。</p>	
3 平成29年度実施規模	
全校生徒を対象に実施した	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>1 「文化ビジネスコーディネーター」育成</p> <p>① 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会 ② 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義 ③ 「諏訪実ミニメッセ」の開催 ④ 「文化ビジネスプロジェクト」の企画作り ⑤ プレゼンテーション能力の育成</p> <p>2 「文化ビジネスディベロッパー」育成</p> <p>① 商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネス」について学習を進める。 ア 「商品開発とイベント企画」 イ 「地域活性化」 ② 「文化ビジネス」向け商品・サービス・イベントの企画・開発案作り</p> <p>3 「文化ビジネスプロデューサー」育成</p> <p>① 文化ビジネスの要素を取り入れた「諏実ショッパーズ」「キッズビジネスタウンすわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。 ② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信 ③ 服飾科における「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組 ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」 イ 「ファッションデザインコンクール」 ウ 「NAGANOデザインフェスタ」 ④ 英語コミュニケーション能力の向上</p>
第2年次	<p>1 「文化ビジネス」と「伝統的文化や伝統的産業の魅力の理解」</p> <p>① 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会 ② 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義 ③ 「諏訪実ミニメッセ」の開催</p>

	<p>④ 「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表（諏実タウン）</p> <p>2 「文化ビジネス」への取り組み</p> <p>① 商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネスエキスパート」育成のため「文化ビジネス」について学習を進める。</p> <p>ア 「商品開発とイベント企画」</p> <p>イ 「財務諸表からみる企業経営」</p> <p>ウ 「ICTを活用したプロモーション戦略」</p> <p>エ 「伝統工芸と現代工芸」</p> <p>オ 「文化とサービス産業」</p> <p>② 京都視察研修</p> <p>③ 「文化ビジネスコンペティション」の実施（文化ビジネスプロジェクト）</p> <p>3 「文化ビジネスエキスパート」として、「文化ビジネス」のプロデュース</p> <p>① 既存の「模擬株式会社S Jカンパニー」を服飾科も含めて立ち上げ直し、「文化ビジネスプロジェクト」を展開し、「文化ビジネス」としての取り組み活動の発表の場をプロデュースする。「文化ビジネスプロジェクト」として、「諏実ショッパーズ」「キッズビジネスタウンすわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。</p> <p>② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信</p> <p>③ 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取り組み</p> <p>ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」</p> <p>イ 「ファッションデザインコンクール」</p> <p>ウ 「NAGANOデザインフェスタ」</p> <p>エ 「商品開発・イベント企画」</p> <p>オ 「ウェブコンテンツ」の作成</p> <p>④ 英語コミュニケーション能力の向上</p>
第3年次	<p>1 「文化ビジネス」と「伝統的文化や伝統的産業の魅力の理解」</p> <p>① 諏訪地方の伝統的文化と伝統的産業について地元産業人による講演会</p> <p>② 同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義</p> <p>③ 「諏訪実ミニメッセ」の開催</p> <p>④ 「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表（諏実タウン）</p> <p>2 「文化ビジネス」への取り組み</p> <p>① 学校設定科目「文化ビジネス研究」において「文化ビジネスエキスパート」育成のため「文化ビジネス」の学習を進める。</p> <p>ア 「商品開発とイベント企画」</p> <p>イ 「伝統産業と現代産業の共存」</p> <p>ウ 「ICTを活用したプロモーション戦略」</p> <p>エ 「諏訪地域の観光紹介（観光マップ・ビデオ）」</p> <p>オ 「諏訪地域の企業パンフレット作成」</p> <p>② 京都視察研修</p> <p>③ 科目「文化ビジネス研究」の成果発表（諏実タウン）</p> <p>3 「文化ビジネスエキスパート」として、「文化ビジネス」のプロデュース</p> <p>① 「模擬株式会社S Jカンパニー」により、「文化ビジネスプロジェクト」を展開し、「文化ビジネス」としての取り組み活動の発表の場をプロデュースする。</p>

「文化ビジネスプロジェクト」として「諏実タウン」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。

- ② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信
- ③ 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取り組み
 - ア 「ウォーキング講習会」
 - イ 「NAGANOデザインフェスタ」
 - ウ 「商品開発・イベント企画」
 - エ 「ウェブコンテンツ」の作成
- ④ 英語コミュニケーション能力の向上

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

2年次に学校設定教科「文化ビジネス」とその学校設定科目として「文化ビジネス研究」を設置し、平成29年度入学生から実施する。3年次に学校設定科目「イングリッシュアライブB」商業科・会計情報科2年次に「イングリッシュアライブA」を設置する。

○平成29年度の教育課程の内容（平成29年度教育課程表を含めること）

別紙参照

○具体的な研究事項・活動内容

1 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人の講演

【目的】

「伝統産業や伝統文化の魅力の理解」を扱い、諏訪の伝統産業や伝統文化の魅力と価値について深く理解し、顧客に広く受け入れられる地域資源とするための方策を考え、提案できる力を身に付ける。

【授業】 1年商業科・会計情報科「ビジネス基礎」、服飾科「生活産業基礎」

【講演】

- ・「上諏訪駅前商店街の歴史と活性化への取り組み」 はずみ屋店主 宮坂知子氏 6月13日
- ・「諏訪の信仰と伝統」 八剱神社宮司 宮坂清氏 7月4日
- ・「諏訪の産業とデザイン」 ステディデザイナー 平林善雄氏 9月5日
- ・「地域商品開発」 松本大学教授 白戸洋氏 9月14日
- ・「諏訪の観光産業とおもてなし」 RAKO 華乃井社長 白鳥和美氏 9月19日

2 京都型ビジネスの講義

【目的】

先駆的な取組である、京都の伝統文化と伝統産業の魅力に新たな付加価値を持たせた「京都型ビジネス」について講義を受け、諏訪地方に適応させる方策を考える力を身に付ける。

【授業】 1年全学年「地理A」「地理B」

【講義】「京都型文化ビジネスについて」 同志社大学大学院教授 村山裕三氏 6月15日

3 諏訪実ミニメッセの実施

【目的】

諏訪地方の地域産業の現状を理解するとともに企業に対する興味を持たせる。また、インターンシップでの学習に向け、企業、働くことの意義などについて理解を深める。

【日時】 8月24日 14:00～15:45

【会場】 諏訪実業高等学校小体育館

【参加生徒】 1年生 185名

【実施形態】

参加企業がブースを設置する。生徒は各ブースを訪問し、事業内容、企業理念、製品などについて説明を受け、質問をし、レポート用紙に記入をする。なお、生徒は5つ以上のブースを訪問することを目標とした。

【参加企業】 長野県中小企業家同友会諏訪支部会員企業 29社

【活動の広がり】

9月22日、県中小企業家同友会諏訪支部が本校を会場に例会を開催し、生徒と参加企業の意見交換会、企業及び学校による取り組みの発表、授業公開等を実施した。

4 「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表

【内容】 講演を聴いた1年生が、諏訪地域の伝統的産業・伝統的文化ビジネスの魅力をグループで討議してまとめ、その結果を発表する。

【授業】 ビジネス基礎・生活産業基礎

【実施方法】 4～5人のグループに分かれて考える。

5 商品開発・イベント企画

【目的】

- ・商品開発やアイデア思考の専門家の講義を受けることによって専門性を身に付ける。
- ・実際に町役場に提案することによって思考力・判断力・表現力を養う。
- ・諏訪地域の伝統的産業や伝統的文化を魅力あるビジネスにつなげる。

【授業】 2年商業科「商品開発」選択者

【内容】

- ① 講義「商品開発のアイデア発想法」 株式会社プラグ代表 小川亮氏 8月28日
- ② 講義「考えることを楽しむ」 株式会社電通アクティブラーニング研究所
倉成英俊氏・舘林恵氏 11月14・15日

【授業】 3年商業科「マーケティング」選択者

【内容】

- ① ジェラート企画・販売
 - ・商品開発したシルク（桑の葉）等のジェラートを店舗やインターネットで通年販売
これらは諏訪大社の献上品にも指定されている。
- ② 下諏訪宿集客プロジェクト
 - ・下諏訪町長・町役場職員・商工会議所の方々に下諏訪宿集客プロジェクトについてプレゼン
5月17日
 - ・品川駅において長野県の下諏訪宿集客プロジェクトに参加 7月13・14日
- ③ 諏訪の香りプロジェクト
 - ・諏訪の特産品や岡谷のシルク製品とコラボした匂い袋の企画開発
- ④ 諏訪の魅力再発見プロジェクト
 - ・諏訪の魅力を紹介する観光コース等の企画を提案

6 京都視察研修

【目的】

伝統文化や伝統産業に現代の市場において新たな付加価値をつけ流通しようとする「文化ビジネス」の実践を理解する。

【参加生徒】 商業科・会計情報科・服飾科 24名

今後諏実タウン・学習成果発表会でリーダーになる者

【実施期日】 6月29日～7月1日

【内容】

- ① 同志社大学大学院ビジネス研究科にて講義
- ② 京都型友禅の体験、京都伝統産業ふれあい館視察
- ③ 企業視察 香老舗 松栄堂
- ④ フィールドワーク（京都市内四条通り周辺）

7 諏実タウン

【概要】「諏実ショッピング（販売実習）」と「キッズビジネスタウンすわ（小学生対象の社会体験学習）」のイベントを総称したもの

【テーマ】 その日あなたは諏訪を魅る

諏訪の魅力を発信することを題材に商業の学びを深めている中で、諏実タウンの2日間を通じ、諏訪の魅力を再発見しようという思いが込められている。

【実施期日】 12月2日～3日

【授業】 商業科・会計情報科3年生が課題研究の授業を中心に企画・運営をおこなった。

【地域との連携・文化発表】

販売部門では地域の野菜やお菓子を販売し、食堂では地域の食材を使用したメニューを考案した。また、今年度は新たに文化ビジネスの研究成果のプレゼンや展示発表を行う場を設けた。

8 学習成果発表会

【目的】

専門学習の集大成として、作品のステージ発表と、基礎から学んだ授業作品の展示発表と、本校の生徒が協力した諏訪市内の小中学校の物作り教育の作品の展示を行い、地域の方に本校の取り組みの成果を理解していただく。

【実施期日】 1月27日

【授業】 服飾科 課題研究

【内容】 韓国視察研修の報告を受けて卒業制作作品に日本文化または異文化、あるいはその両者をデザインに取り入れる。

9 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取り組み 服飾科

- ① 「日暮里繊維街 素材リサーチ視察」 12月1日（1年）
- ② 「駒ヶ根視察」 久保田織染工業 駒ヶ根シルクミュージアム マイナック
12月1日（2年）
- ③ 「着付け講習会」 講師 着付け師 古田南方美氏 2月23日
- ④ 「ウォーキング講習会」 講師 b e ウォーキングスタジオ 齋藤義人氏
7月1日 2月8日
- ⑤ 「色彩検定対策講座」 講師 A F T 認定講師 河合由夏氏 10月6/20日 1月18日
- ⑥ 「デザイン画講座」 講師 杉野服飾大学助教 数井 晴子氏 9月14日 11月16日
- ⑦ 岡学園トータルデザインアカデミー学生制作作品展見学 2月17日
- ⑧ 「照明・舞台演出講習会」 講師 エムプランニング 真島邦昭氏 5月24日

10 韓国視察研修

【目的】

日本の文化との違いを考えることによって異文化理解を深め、諏訪地域の文化の魅力を再発見する機会とグローバルな情報発信の方法を探る。

【参加生徒】 商業科・会計情報科計10名 諏実タウンのリーダー

【実施期日】 8月29日～9月1日

【内容】

- ① 梅香女子情報高等学校との交流会
- ② 本校商業科・服飾科職員による梅香女子情報高等学校との合同授業
- ③ ホームステイ
- ④ 文化視察（MBC ワールド、民俗村）
- ⑤ 市場調査（南大門市場）

11 パフォーマンス評価研修会

【目的】 ルーブリックの基本や概略、作成方法、評価項目の考え方などを学ぶ。

【日時】 8月21日 13:00～17:00

8月22日 9:00～12:00

【講師】 京都大学大学院教育学研究科博士課程後期 福嶋祐貴氏

【内容】 グループ演習で実際にルーブリック表を作成し、講師の指導を受ける。他校からの参加もあり、研修の成果を実際の評価に活かしている。

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

- ・1年生への講演会およびグループ討議・発表会によって思考力・判断力・表現力が高まると共に、生徒の地域理解が進行し、今後の「文化ビジネス」のプランニングの礎となった。
- ・諏訪実ミニメッセを通じて、生徒の地元企業への関心と理解が高まり、地元中小企業にとっても格好のPRの場となり、学校、企業ともに互いにWin・Winの取り組みであった。
- ・京都視察研修を通じて生徒は文化ビジネスの意義への理解を深め、今後の活用に向けて活動を継続している。2学年全体に報告会を開いて研修内容を共有し、諏訪地域に適応させる方策をグループ討議・発表することにより思考力・判断力・表現力の高まりがみられた。
- ・韓国視察研修によって生徒は人間的にも成長し、異文化理解が深まるとともに積極性が増し、その後のイベントにおいて優れたリーダーシップが発揮された。3年生全体に報告会を開いて研修内容を共有した。今後の梅香女子情報高等学校とのコラボ事業の提案もなされ今後の発展が期待される。
- ・「諏訪の香りプロジェクト」は諏訪の魅力を発信できる商品開発として来年度も継続する。香りの開発は商業科、袋の製造は服飾科がおこなうことによって両科のコラボが期待できる。
- ・昨年度不十分であったSPH事業の情報発信については、ホームページのリニューアル、Facebookでの「文化ビジネス教育」の発信等積極的に行った。また、紙媒体のSPH通信を定期的に発行することで研究成果を広く周知することができた。
- ・生徒はSPHの成果発表で多くのイベントに積極的に参加し、発表の機会を持つことができた。発表を重ねるごとに多くの生徒の表現力が向上していった。

○実施上の問題点と今後の課題

- ・京都視察研修・韓国視察研修の内容が「諏実タウン」「学習成果発表会」等に有効に反映される方途と取り組みを検討する。
- ・「諏実タウン」において学習成果を発表する場を設けることによって、周知を図るようにする。また、「学習成果発表会」においても、「文化ビジネス」の企画という側面をより鮮明に打ち出していく。
- ・2年目を迎え、職員が主体的に研究を推進する体制となったが、さらに商業科、服飾科、普通科の職員の連携が必要である。来年度から始まる学校設定科目「文化ビジネス研究」の取り組みでは校内の連携をさらに深めたい。